

船舶事故等調査報告書

平成22年7月29日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2009横第230号	
事故等種類	乗揚	
発生日時	平成21年6月27日 14時00分ごろ	
発生場所	東京都京浜港東京区東京国際空港南東沖 東京灯標から真方位205° 3,500m付近（概位 北緯35° 32.45′ 東経139° 49.43′）	
事故等調査の経過	平成21年9月16日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。	
事実情報	<p>船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等</p> <p>A 押船 第八白洋丸、19トン 280-35263、株式会社白洋建設</p> <p>B 起重機船第十白洋号 1,907トン 長さ60m 幅20m、株式会社白洋建設</p>	
乗組員等に関する情報	A 船長、一級小型船舶操縦士	
死傷者等	なし	
損傷	<p>A 両舷プロペラ翼曲欠損</p> <p>B No.1 及びNo.2スラスタ-翼曲欠損</p>	
事故等の経過	<p>A船は、押船で船長1人が乗り組み、被押船のB船には、乗組員4名が乗船し、京浜港東京区東京国際空港D滑走路建設の埋立工事（以下「本件埋立工事」という。）埋立2工区における作業を終了し、仮泊予定地点に向けて埋立護岸の出入り開口部付近を航行中、南西からの横風に圧流され、平成21年6月27日14時00分ごろ、同護岸端付近でA船の船尾船底に衝撃を受けた。</p> <p>A船は、プロペラに振動を生じたため、減速運転を強いられた。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 晴、風向 南南西、風力 5、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 下げ潮の末期、潮高 約34cm</p>	
その他の事項	<p>本件埋立工事の区域は、埋立護岸に一定の間隔で開口部が設けられ、同開口部から作業船等が出入りして土砂の投入作業等が行われていた。</p> <p>埋立護岸付近は、捨石等で浅くなっているため、開口部付近等の浅所には目印として竹が刺されていたが、同目印付近以外でも水流等の影響で土砂等が堆積して浅くなるがあった。</p> <p>A船船長は、強風の影響を認識していたが、風圧が予想以上に大きいことに気付かなかった。</p>	
分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>A船は、B船を押して埋立護岸の開口部付近を航行中、横風に圧流され、両船が浅所に底触したものと考えられる。</p> <p>埋立護岸の開口部付近は、水流等の影響で浅く</p>

	なっていた可能性があると考えられる。
原因	本事故は、A船が、B船を押して埋立護岸の開口部付近を航行中、横風に圧流されたため、両船が浅所に底触したことにより発生したものと考えられる。